

分かる快感！

Z会ナビ

算数

理科

社会

お題

平安時代の貴族が 日記を書いた理由とは？

（東京大学 2019年 日本史）



レゴブロックを使った
プログラミング通信講座
Z会にて開講中！
Z会 レゴ 検定講座

10世紀から11世紀前半の貴族社会に関する次の文章を読んで、この時期に貴族の日記が書かれた理由を説明しなさい。

(1) 9世紀後半以降、朝廷で行われる儀式や仕事が「年中行事」として整えられた。くりかえし実施される中で、あらゆる行事について、手順や作法が細かく決められていった。

(2) 朝廷の行事には責任者が決められた。朝廷での地位に応じて、担当できる行事が異なっていた。

(3) 藤原顕光は名門に生まれ、重要な行事の責任者を務めたが、手順や作法を誤ることが多く、ほかの貴族たちは顕光を「たいへん愚か」と評した。

(4) 藤原実資は、祖父藤原実頼の日記を受け継ぎ、また自分自身も長年日記を記していたため、さまざまな行事の手順や作法に詳しかった。そのため、重要な行事の責任者を務めることが多く、朝廷で重んじられた。

(5) 藤原師輔は、重要な行事と天皇や父親に関することは、後々の参考のために日記につけておくことを子孫に言い残した。



困る貴族から判断されていたことがわかります。

また(4)(5)を読むと、貴族の日記にはさまざまな行事の手順や作法について記されており、それが代々受け継がれていること、それを読むことで手順や作法に詳しくなることができたこと、それだけに、子孫のためにも行事について日記に詳しく書き残すことが求められていたことがわかります。

「先例」守って家を守る

読み取った内容について、歴史的な背景を確認していきましょう。

10世紀から11世紀前半は、藤原氏がほかの有力な貴族を政治から追い出し、天皇と親戚となって絶大な権力をふるった時期でした。

当時の貴族社会では、生まれた子どもは母の実家で育てられ、母方の祖父が面倒をみるのが一般的でした。藤原氏は、自分の娘を天皇のきさきとして、その間に生まれた子を次の天皇としました。その結果、天皇・朝廷に対して、天皇の母方の祖父として強い影響力をもつことに成功しました。

藤原氏は、こうして得た絶大な権力を背景に、朝廷の高い地位を多く占めるようになり、この時期には家柄によって朝廷での地位がほぼ決まるようになりました。

また、この時期の政治は、積極的に新しい政策を進めることよりも、決まった儀式や仕事を過去の手順通りにとりおこなうことが重視されました。この守るべき過去の手順を「先例」と言

います。先例の通りに行事を進めることが、その人の朝廷での評価のポイントだったことは、問題文で見た通りです。

行事の手順を記録しておくのであれば、手順をまとめた文章を、次の責任者に引き継いでいけばよいのではないかと、思う人もいるかもしれませんが、なぜ藤原氏は「日記」という手段で記録を残したのでしょうか。

ポイントは、先ほど説明した「家柄によって朝廷での地位がほぼ決まる」という点と、(2)の文章の「朝廷での地位に応じて、担当できる行事が異なっていた」という点です。言い換えれば、自分の子孫であれば、将来自分と同じ立場・地位で行事をとりおこなう可能性が高いという状況でした。だからこそ、子孫のために日記に詳しく記録し、また、子孫にも日記を書いて伝えていくように言い残したのです。

（Z会・河原井彩）

仕事は細かい手順が大切

まずは、問われている内容（この時期に貴族の日記が書かれた理由）を頭に置きながら、各文章に書かれている内容を読み取っていきましょう。

(1)の文章からは、儀式だけでなく仕事も含めて、細かい手順が決まった行事として整備されていったことがわかります。(2)～(4)の文章を読むと、各行事の責任者は朝廷内の地位により決まり、手順についてよく知っていると「能力が高い」、手順を誤ると「能力が低い」と周

！ 今回の 教訓

平安時代の日記は現代の日記とは少し違う性格を持っていたことがわかりました。史料（貴族の日記）が書かれた背景や目的を理解することで、史料の内容もより深く理解することができます。



河原井彩さん 2007年に入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在は中学生・高校生向けの社会科教材を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。